

碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

まちを育む住民主体のコミュニティ

113

2025 July

少子高齢化が急進展する中、地域コミュニティの果たす役割が大きくなっています。その中心的役割を長年担つてきただけは、地縁組織である自治会・町内会（以下、自治会）である。

自治会の起源は江戸時代の村ではないかと考えている。明治時代になって近代化を急いだ日本は、富国強兵・殖産興業による国づくりを進めたため、いかなかった。政府は本格的な地方自治制度に向けて明治の大合併を行い、いくつかの村を統合して市制町村制を施行した。その結果、江戸時代の村は地域自治組織でなくなつたことから、

対応措置として自主的に地域住民を会員とする地域自治組織をつくった。これが単位自治会である。

さらに昭和30年前後の昭和の大合併では、明治の町村をいくつか束ね、新制中学校区規模の市町村に再編した。法人格を失つた旧町村では、単位自治会が集まつて連合自治会をつくった。このような経緯で、地方公共団体である市町村の中に住民組織の単位自治会と連合自治会が存在する、独自の地域自治構造ができたと考えている。

諸外国をみると、ヨーロッパでは、高福祉・高負担国家を形成する国民的合意の下で、必要とされる公共サービスは行政が提供した。低福祉・低負担の米国においても、必要な公共サービスは行政が行っている。そのため、欧米

POINT OF VIEW 視点

名和田 是彦

法政大学 法学部 教授

新たなニーズを掘り起こし 地域コミュニティを再生する

特集 まちを育む住民主体のコミュニティ

自治会は市町村合併で生まれた住民による地域自治組織



p.9



p.12



p.14



p.17



p.24



p.26



p.28

profile

名和田 是彦

（なわた・よしひこ）

1955年山口県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科単位取得満期退学。法学修士。横浜市立大学、東京都立大学を経て、現職。研究分野は、法社会学・コミュニケーション政策論、コミュニティ政策学会会長。横浜市を中心にコミュニティと住民参加の実態を研究。1993年から95年までドイツ・ブレーメン市にて現地の実態を調査。著書に「コミュニティの自治」（編著、日本評論社、2009）、「自治会・町内会と都市内分権を考える」（東信堂、2021）など。

会費を集め、組織を運営して身近な公共サービスを提供したが、活動は会員がボランティアで支えた。自治会活動をボランティアで行える自営業者と専業主婦とリタイアした高齢者が一定数いたから、乏しい会費による財政でも活動が成り立つたのである。また、会員を個人ではなく世帯単位とした。世帯から活動の担い手を一人出すことで、会員間の負担の平等性を保つたのである。

自治会が提供するサービスは地域内全域に及ぶので、本質的には排除性がない、誰でもサービスを享受できる。そのため、非会員であっても、会費を払わずして防犯灯が点灯した夜道を歩き、美化清掃されたきれいな地区で暮らすことができる。つまりは

碧い風

あおいかぜ

113
2025 July

CONTENTS

- | | | | | | | |
|-------------------|------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|---|-----------------------------------|--|
| 28 | 26 | 24 | 23 | 20 | 17 | 14 |
| 山があるく 24 琴石山（山口県） | オンリーワンのご当地ミュージアム 6 もちがせ流しひなの館（鳥取市） | 伝統芸能を継ぐ人びと 14 吉和太鼓踊り（広島県尾道市） | この名酒にこの一品 36 大典白菊 純米大吟醸雄町 筍料理（岡山県高梁市） | 夢紡人／ゆめつむぎひと 109 F M L－インターなショナルジャパン 代表 胡敏（鳥取県北栄町） | キラリ、輝く元気企業 86 株式会社守谷刃物研究所（島根県安来市） | 地域に生きる企業家群像 113 鳴本石材株式会社 代表取締役 鳴本 太郎（岡山県笠岡市） |

表紙写真／日本遺産認定を機に見学ができるようになった北木島の石切り場（岡山県笠岡市）
表紙写真提供／公益社団法人 岡山県観光連盟
目次写真提供／城西まちづくり協議会、ささラブ応援隊、西江 浩二、山田 泰三、尾道市、もちがせ流しひなの館、柳井市
デザイン／有限会社シフト

青い海と緑の山々に恵まれた中国地域に、地域づくりの風が吹き始めています。自分たちの大好きなこの街を少しでも良くし、子どもたちにしっかりと手渡したい。こんな気持ちで頑張っている人たちがいっぱいいます。「碧い風」は、そんなまちづくり人を結びながら、自分たちのまわりにある魅力を高め、きらめくような中国地域にしていく媒体にしていきたいと思っています。強くはないが、楽しい風。そんな風を、みなさんと一緒に巻き起こしたいと考えています。

特集

まちを育む住民主体のコミュニティ

ー視点ー

新たなニーズを掘り起こし地域「コミュニティを再生する

名和田 是彦（法政大学 法学部 教授）

歴史的な町並みを守りながらみんなでつくる暮らしやすいまち
城西まちづくり協議会（岡山県津山市）

佐々並小学校存続への思いからウエルビービングなまちづくりへ 4者連携の定住促進活動を開始

ささラブ応援隊（山口県萩市）

地域の団体が連携した「ひろしまLIMO」で持続可能な地域「コミュニティへ

広島市

歴史的な町並みを守りながらみんなでつくる暮らしやすいまち

城西まちづくり協議会（岡山県津山市）

佐々並小学校存続への思いからウエルビービングなまちづくりへ 4者連携の定住促進活動を開始

ささラブ応援隊（山口県萩市）

地域の団体が連携した「ひろしまLIMO」で持続可能な地域「コミュニティへ

フリーライド（ただ乗り）が可能であることから、非会員が増えれば負担と受益の不均衡が大きくなり、会員内では不公平感の高まりへとつながる。

自治会加入率低下の要因は世帯の縮小と加入意識の低下

地域に必要なサービスを提供しているにもかかわらず、自治会の加入率が低下している。地域差はあるが、5割を下回る自治体も出始めている（図1）。加入率が低下した第一の要因は、世帯規模の縮小である。一人世帯が増えてきて、一人暮らしの若者が加入しないことに加え、近年は独居高齢者が脱会する現象も急速に進んでいる。

地域にこうした非会員が増えることで先に述べたように不公平性が拡大し、自治会に入るメリットが薄れると、「自治会への加入は当たり前」という意識が若い世代を中心に失われて加入率低下にさらなる拍車をかける。

また、活動を担うボランティア人材が減ったことも、自治会活動の衰退に影響している。東京都町田市で市民に對して行った2024年度のアンケート調査では、前回調査した2006年と比べて自営業者、専業主婦、無職の高齢者のいずれも減っていた（図2）。

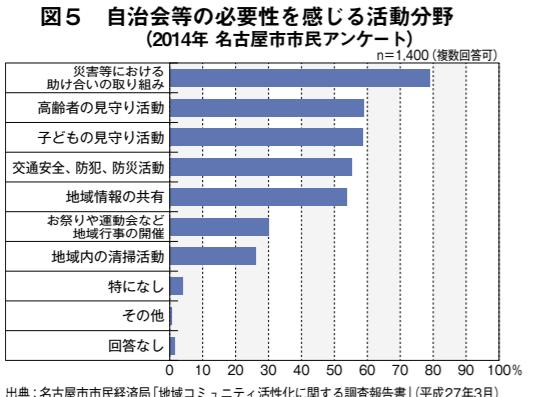


図5 自治会等の必要性を感じる活動分野 (2014年名古屋市市民アンケート)

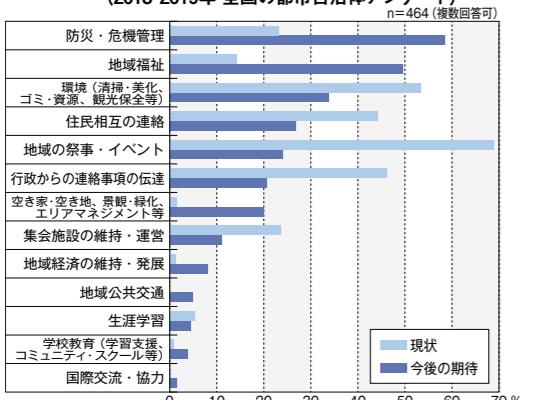


図6 自治会等が現在行う重要な活動と今後期待する活動 (2018-2019年 全国都市自治体アンケート)



防災の視点から地域を活性化

「防災まちづくり大賞」を三度受賞している、香川県丸亀市・川西地区地域づくり推進協議会の自主防災会では、20年以上前から地元小学校やスーパーで定期的に訓練を実施している。写真提供：川西地区地域づくり推進協議会

具体的な動きをみると、香川県丸亀市は地域住民によるまちづくり協議会の設立を推進しており、中でも川西地区地域づくり推進協議会の活動が注目される。防災の視点から地域を活性化する活動を推進し、「防災まちづくり大賞」（総務省主催）をこれまでに三度受賞。個人でも加入できる「コミュニティ政自治会」を組織するとともに、地元企業や店舗の協力の下、加入者特典を設けるといった加入啓発活動を積極的に進め、加入率は向上している。

中国地域でもさまざまな取り組みが実践されている。広島市は地域運営組織の「ひろしまL.M.O.」づくりを推進している。小学校区をコミュニティ政策のターゲットエリアとし、地区・学

区社会福祉協議会や連合町内会・自治会等が中心となり、エリア内の多様な団体とチームをつくり地域の課題解決に向けた活動を行う試みである。島根県雲南市は小規模多機能自治の先進地として知られ、地域自主組織による活動を推進している。会合には主に世帯主が出席するという従来の「1戸1票制」の集落（自治会）制度を、子どもや若者、女性など幅広い世代が関わる「1人1票制」にし、住民一人ひとりが地域活動に取り組める地域自治への転換を図った。

今後重視すべき地域課題は防災と地域福祉

では、新たな地域自治組織はどのよ

うな活動を進めていくべきだろうか。2014（平成26）年の名古屋市の市民調査では自治会の必要性を感じる活動分野として「防災」と「高齢者や子どもの見守り活動（地域福祉）」が挙げられ（図5）、日本都市センターの調査でも「防災・危機管理」と「地域福祉」という回答が多く（図6）。また、町田市の調査でも一番関心を持っている地域課題は「防災」との回答であった。

そのことから、新たな地域コミュニティが今取り組むべきことは、防災を切り口とした地域を見守る仕組みづくりといえよう。ただ、防災や地域福祉分野はやや専門性が高く一般住民だけでは対応が難しい。そのため、専門機関や行政との連携やその支援の活用などを通じて専門人材の確保が必要となる。こうして専門性を補いながら公益性の高い活動を行うことができれば、

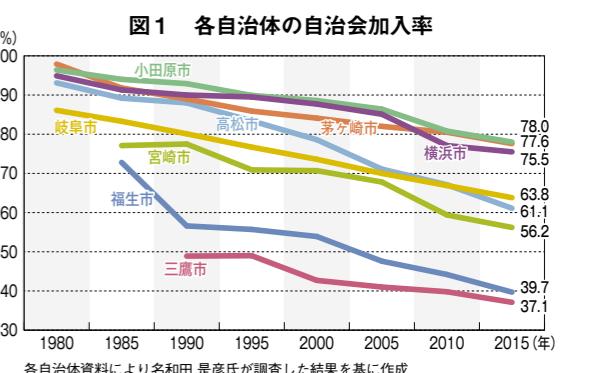
テイが今取り組むべきことは、防災を切り口とした地域を見守る仕組みづくりといえよう。ただ、防災や地域福祉分野はやや専門性が高く一般住民だけでは対応が難しい。そのため、専門機関や行政との連携やその支援の活用などを通じて専門人材の確保が必要となる。こうして専門性を補いながら公益性の高い活動を行うことができれば、

地域コミュニティの存在意義も高まる。また、先の町田市調査において「地域活動に対する報酬について」の問い合わせては無償派よりも有償派が多く答えていた。この調査結果を踏まえると、今求められるのは「事務局」を設置して事務局員を雇用する、という仕組みにしていくことであると考えていける。地域コミュニティセンターや公民館を地域コミュニケーションの事務局として機能転換を図ることが重要であり、先述の丸亀市の例は行政においてこの転換がうまく進んだ結果ともいえる。

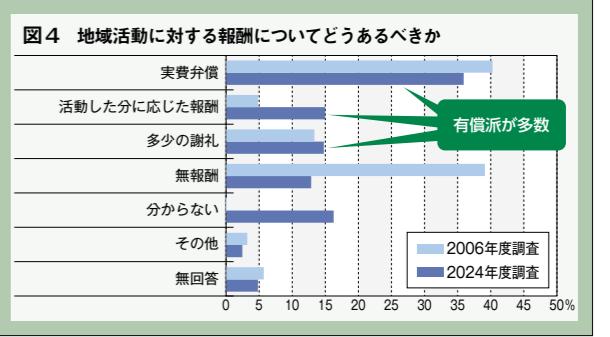
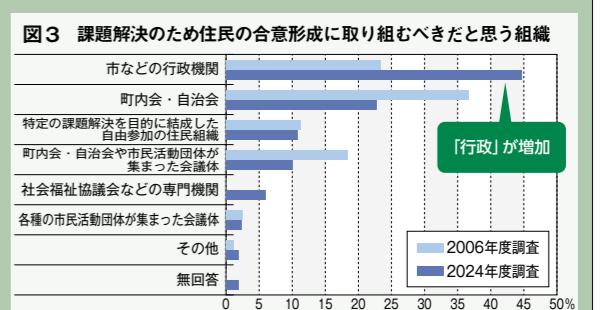
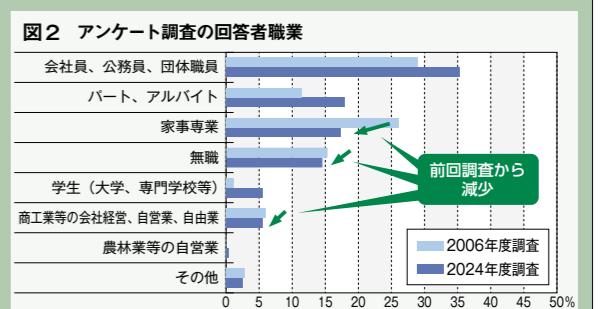
また、地域住民のニーズに即した新たな活動を仕掛けることも大事だ。新しい取り組みは、新しい仲間を増やす機会となるからである。特に、若い世代のニーズを掘り起こしてほしい。

近年、地域の集会施設を活用してコ

ミュニティカフェを開設し、誰もが参加できる交流の場にする動きが広がっている。人が集い交流する中から新たなニーズが生まれる可能性がある。そのニーズに応じた活動を行政や専門機関とも連携して事務局体制をしつかりと固めて進めれば、持続可能な地域自治活動につながるのではないだろうか。今後の動向を注視したい。



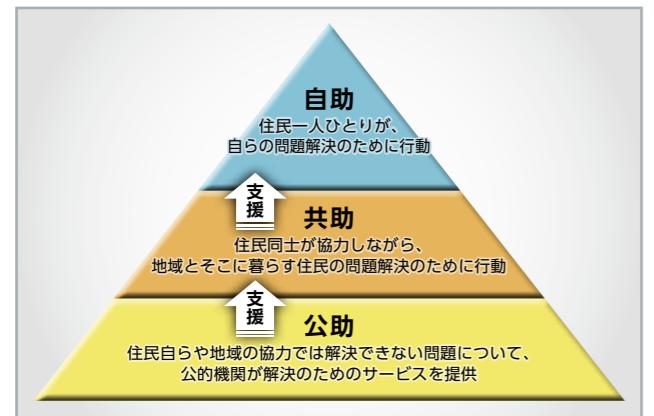
2024年度 町田市地域コミュニティに関する市民アンケートより



有効回答：3,472名 (15歳以上80歳未満)
出典：町田市・法政大学共同研究「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」
2024年度 中間報告書 (2025年3月)

※ 出典：公益財団法人日本都市センター報告書「都市内分権の未来を創る—全国市区アンケート・事例調査を踏まえた多角的考察ー」(2016年3月刊行)

図1 自助・共助・公助の一体的な機能発揮のイメージ



出典：広島市地域コミュニティ活性化ビジョン（令和4年2月）

図2 「ひろしまLMO」のイメージ

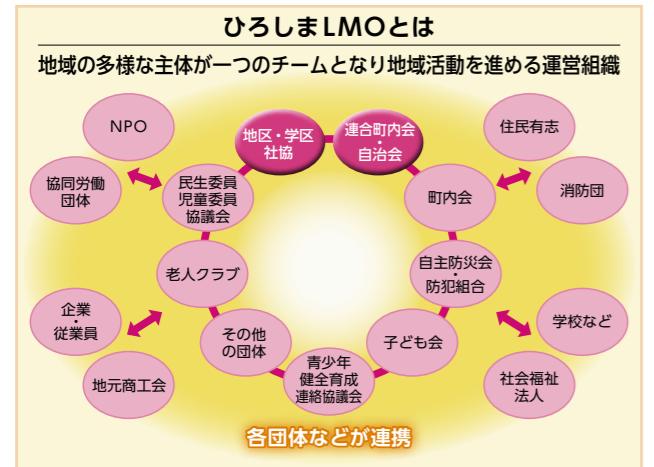


図3 広島市社会福祉協議会からの財政支援一覧

① ひろしまLMO設立時助成金(1回限り)	上限額 50万円
種別	上限額
設立時の運営費	50万円 補助率 10/10
② ひろしまLMO運営助成金(毎年度の申請が可能)	上限額 600万円
種別	年度上限額
人件費	300万円 補助率 10/10
活動拠点維持管理・運営費	300万円 補助率 10/10
地域課題解決のための事業への支援	活動拠点の継続的な運営に要する経費 (借上料、光熱水費、通信費など) 事業計画に基づく地域の実情に応じた課題解決のための事業に要する経費
③ ひろしまLMO一括交付金(毎年度の申請が可能)	
LMOの構成団体およびLMOと連携協定を締結している各種地域団体における、地域特性を生かした活動のさらなる充実や事務負担軽減につなげるため、市から各種地域団体（体育協会など6団体が対象）に直接交付している補助金に代え、従来の補助金の補助限度額や対象経費等を拡充・一本化した一括交付金を交付するもの	



を行つた。この結果を踏まえ、住民自らが課題解決を行う「自助」を、住民同士が協力して地域課題の解決を行なう「共助」が支援し、それらを「公助」により下支えするという、自助・共助・公助の一体的な機能發揮（図1）について、持続可能な地域共生社会を実現すべく、2022（令和4）年2月に「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」を策定した。

この中で、これまで地域コミュニティを支えてきた地区・学区社会福祉協議会や連合町内会・自治会等が中心となり、地域団体やNPO、協同労働、

団体、企業、商工会、住民有志等と連携して地域の将来像を共有しつつ課題解決に取り組む新たな団体として、広島型地域運営組織「ひろしまLMO（Local Management Organizationの略、以下LMO）」を各地域に設立する」とを構想（図2）。同年7月から、設立を希望する地域を募集し、設立や運営の支援を行っている。

LMOは地域の多様な主体が連携して設立され、活動範囲はおおむね小学校区域だ。広島市内には140の小学校区があり、初年度の設立は9団体だったが、2025（令和7）年5月

末現在では約半数に当たる65団体が設立し、17団体が設立に向けて取り組んでいるところだ。

LMOの設立および運営に向けた支援

「各地域には担い手不足、地域内の団体間の連携不足、活動資金不足といった課題があります。LMOの設立により、若い世代や新たな担い手の確保、団体間の連携強化、柔軟な財政支援を活用した活動拠点や活動内容の充実等の効果が期待できます。各LMOを続可能な団体にしていくために、私た

LMOの設立および運営に向けた支援

末現在では約半数に当たる65団体が設立し、17団体が設立に向けて取り組んでいるところだ。

ちは地域に寄り添い、できる限りのサポートをしていきます」と同課の主査・高橋啓司さんは話す。

広島市では、LMO設立に関心のある地域を対象にLMO設立を支援すべく「広島市LMOづくりサポート事業」を展開している。サポート事業では、すでに設立したLMOの活動拠点を訪問する「ツアーモード」と、LMOの会長等の来訪を受ける「派遣型」のどちらかを選択でき、参加者からは「LMOの役割や運営について具体的にイメージできた」など好評を得ている。

また、市の担当者も現地へ出向き、



地元の学区社協や防犯組合など38団体で構成された広島市安佐南区の「やまもとLMOまちづくり委員会」では、
リース車1台を確保して青色防犯パトロールを行い、地域の安全を守っている。

地域の団体が連携した「ひろしまLMO」で 持続可能な地域コミュニティへ

広島市

広島市では、地域のコミュニティが抱えるさまざまな課題に対して最適な解決策が実行できるよう、各地域内の地域団体等が連携した広島型地域運営組織「ひろしま LMO」^{エルモ}づくりを推進している。新規団体の立ち上げ支援だけでなく、すでに設立した LMO に対しても多岐にわたる支援を行い、市民主体の持続可能なまちづくりを進めている。

文／藤沢 亮乃

地域の事情に即した 地域運営組織

近年、少子高齢化や単身世帯の増加、労働・生活環境の変化などにより、相互扶助や福祉、防犯、防災、環境美化、交通安全、伝統文化の維持等、地域での暮らしを充実させる上で欠かせない役割を担ってきた地域コミュニティでは、その機能の低下が懸念されている。地域コミュニティの担い手としては、町内会や自治会をはじめ、子ども会、老人クラブなど多くの既存団体があるが、地域の実情や課題はさまざままで、一概に「これが最適」といえる解決策はない。

例えば「市内中心部では単身世帯が多く町内会加入率が低いため、地域活動にどう関心を持つてもらうかが課題です」と広島市地域活性化調整部コミュニケーションニティ再生課の主事・丸子彩さんが話す一方、郊外の中山間地域を担当する同主事の村上俊輔さんは「高齢者が多く、交通手段をいかに確保するかが課題」だと言い、中心部と郊外では異なる事情がうかがえる。

広島市では、2020年度に地域コミュニティに関する課題分析や活性化策の検討のため、アンケート調査等



手工業で栄えた大正期にぎわいを再現した「津山・城西まるごと博物館フェア」。クラウドファンディングで購入した人力車を地元の青壮年有志による「城西人力車隊」が引いて城西地区を盛り上げる

歴史的な町並みを守りながら みんなでつくる暮らしやすいまち

城西まちづくり協議会《岡山県津山市》

岡山県北部に位置する人口約10万人の津山市。中心部の高石垣に囲まれた津山城跡(鶴山公園)は、約1000本の桜が咲く名所で知られ、出雲街道(出雲往来)沿いの城下町には、江戸時代の町並みと明治・大正期の景観が共存する東西二つの重要伝統的建造物群保存地区がある。

その一つを含む城西地区は、近年、住民主体の魅力的なまちづくりで注目されている。

文 / 里部 麻子

イベントをきっかけに
まちづくり協議会が発足

城西地区は、15町内会で構成され
1660世帯（約4400人）が暮ら
す地域だ。その地区の住民組織、城西
まちづくり協議会（以下、協議会）は、
2011（平成23）年に結成された。
きっかけは、1996（平成8）年に
津山市が始めた「津山・城西まるごと
博物館フェア」である。まちを一つの
博物館に見立て、手工業を軸に栄えた
城西地区の大正時代のにぎわいを再現
した年1回のイベントだ。2007（平
成19）年、城西地区での公民館建設を
機に、このイベントの運営を地域住民
が担うことになった。



IMO黑沙門台(黑沙門台学区社会福补協議会)

2023年3月設立。地域の伝統行事「とんど祭り」の企画を若い世代に依頼し、キッズセンターやキッズスペースの新設などで来場者の増加に貢献。また、事務局員にも子育て世代を雇用するなど、地域の将来を見据えた取り組みを行っている

ントの開催など、地域課題の解決に向けた活動内容を充実させることが可能となる。

「本制度スタート時の市の担当者は苦労したと思います」と丸子さん。市の取り組みもありLMOが少しづつ増えてくると、関心を持つ地域が増え、設定すべく、地域住民の意見を積極的に取り入れて合意形成を図りながら議論を進めているところだ。

その他の団体でも、地元企業と協働でイベントを開催したり、小中学校と連携して地域学習に力を入れたりと、特色ある活動が各所で行われている。

持続可能な 地域コミュニティを目指して

2022年のLMO制度開始時、当面の課題は認知度の向上だった。そこで各地域に担当者が出向き地道に説明して回り、さらには広報紙などでの告知、動画を作成するなどPRに努め、LMOづくりの意義を訴えてきた。これまでに制作した動画4本のうち1本の再生数は現在6000回を超えている。



から、広島市企画総務局地域活性化
整部コミュニティ再生課の高橋啓司
さん、丸子彩さん、村上俊輔さん



設立に向けた相談や疑問に丁寧に向き合へ、さうこそ書類の書き方など、少しお手伝い

LMOの構成団体およびLMOと連携協定を締結している団体が実施する事

育て広場等イベントの企画・運営を担当する事務局員こ子育て世代を雇用す

立件数も増えていった。

令和元年

こうした中、2024（令和6）年9月、国において市町村長が地域的な共同活動を行う地縁による団体等を指定地域共同活動団体として指定できること等を定めた「地方自治法の一部を改正する法律」が施行された。

これを受け、広島市ではこの制度を活用してLMOへの支援を一層充実させることで、地域における多様な主体が連携した共助の精神に基づく持続可能な地域コミュニティの実現を目指し「広島市指定地域共同活動団体の指定等に関する条例」を2025年7月1日に施行。併せて、LMOの持続的かつ適正な運営のポイントなどを示した「持続可能な地域コミュニティの実現に向けたガイドライン」を策定した。

地域の複数の主体がチーム一体となつて展開するLMOの活動により、住みやすく居心地のいい広島市の未来が育まれることを期待したい。

左から、広島市企画総務局地域活性化調整部コミュニティ再生課の高橋啓司さん、丸子彩さん、村上俊輔さん

ひろしまLMO
情報サイト

イベントをきっかけに まちづくり協議会が発足

城西地区は、15町内会で構成され1660世帯（約4400人）が暮らす地域だ。その地区の住民組織、城西まちづくり協議会（以下、協議会）は、2011（平成23）年に結成された。きっかけは、1996（平成8）年に津山市が始めた「津山・城西まるごと博物館フェア」である。まちを一つの博物館に見立て、手工業を軸に栄えた城西地区の大正時代のにぎわいを再現した年1回のイベントだ。2007（平成19）年、城西地区での公民館建設を機に、このイベントの運営を地域住民が担うことになった。

「城西地区は、協議会の働きかけもあり2020（令和2）年にはようやく重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）に指定されました。まるごと博物館フェアが始まった当初は、津山城を挟んで反対側の城東地区は早くから指定され町並み保存が進んでいたものの、城西地区にはそうした動きがまだありませんでした。まるごと博物館フェアはソフト面で何か形に残していこうと始まつたイベントでもあります。2007年に行政の手を離れ、



- 1 福祉部会が地域の子どもたちと共に行う公園整備事業は、イベントが規制されていたコロナ禍に户外で3世代交流を図るために始まった
2 防災防犯部会では、2020年策定の「津山市城西地区防災計画」を見直しながら、防災訓練、避難所運営訓練、子どもの見守り、防犯活動に取り組んでいる

防災防犯部会が 県内初の地区防災計画を策定

城西地区の出雲街道沿いは、一級河川の吉井川が流れ、古くから水害に悩

福社部会では、現在、乳幼児親子を対象にした子育てサロン「さくらんぼ」、小学生を対象に学習支援と体験活動を行う「まちばの寺子屋」、そこで提供される「寺子屋ランチ」（子ども食堂）など、幅広い事業を行っている。

災害など有事の際に高齢者や障がい者などが取り残されないよう、城西地

高齢者の居場所づくりから始まった福祉部会では、現在、乳幼児親子を対象にした子育てサロン「さくらんぼ」、小学生を対象に学習支援と体験活動を行う「まちばの寺子屋」、そこで提供される「寺子屋ランチ」（子ども食堂）など、幅広い事業を行っている。

災害など有事の際に高齢者や障がい者などが取り残されないよう、城西地

日々の暮らしに必要な 福祉部会の役割

区独自の「見守り台帳」も作成している。

希望者は、かかりつけ医や緊急連絡先などの個人情報を協議会に提出する。

台帳は公民館で保管され、緊急時には避難支援や安否確認などに活用される。

また、1時間500円の「おたすけ隊」の利用者も増えている。福祉部会で

地域の困り事を調査したところ、ちょっとした修繕や電球交換、ゴミ出しなど、介護保険の対象にならないような小さなニーズが意外と多いことに気づいた

といふ。

「市の職員から、『これはまさに小地域ケア会議ですね』と言われました。私

たちが日々の暮らしに必要だと感じて始めた取り組みが、市がやろうとしていたことと合致していたんですね」

世代を超えた交流も広がっている。それまで老人クラブが担当していた児童公園のメンテナンスを、子どもと一緒に草取りやベンキ塗りをするイベントとして開催。親も参加して木を伐採するなど、みんなで楽しみながら公園をきれいにしている。

日々の暮らしに必要な

福祉部会の役割

希望者は、かかりつけ医や緊急連絡先などの個人情報を協議会に提出する。

台帳は公民館で保管され、緊急時には避難支援や安否確認などに活用される。

また、1時間500円の「おたすけ隊」の利用者も増えている。福祉部会で

地域の困り事を調査したところ、ちょっとした修繕や電球交換、ゴミ出しなど、介護保険の対象にならないような小さなニーズが意外と多いことに気づいた

といふ。

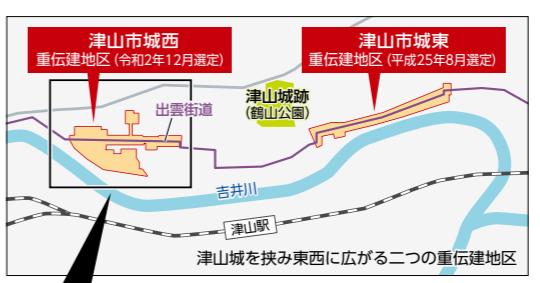
「市の職員から、『これはまさに小地域ケア会議ですね』と言われました。私

たちが日々の暮らしに必要だと感じて始めた取り組みが、市がやろうとしていたことと合致していたんですね」

世代を超えた交流も広がっている。それまで老人クラブが担当していた児童公園のメンテナンスを、子どもと一緒に草取りやベンキ塗りをするイベントとして開催。親も参加して木を伐採するなど、みんなで楽しみながら公園をきれいにしている。



写真提供／公益社団法人 岡山県観光連盟



先達といくおかげめぐり

宗派を超えて、城西地区九つの寺の若手僧侶が結成した「若僧会」。その僧侶ガイドが寺社を案内するツアーはインバウンド客にも人気が高い。人力車とセットで楽しむことができる。

寺社を巡る
1
抹茶
2
写経・写仏
3
坐禅・瞑想



城西地区まちの駅

① 作州民芸館 (津山まちの駅城西)
1909(明治42)年築、旧土居銀行。民芸品、郷土玩具などの展示のほか、土産物販売やカフェコーナーを併設
② 城西浪漫館 (まちの駅城西浪漫館)
1917(大正6)年築、中島病院旧本館。まちの駅城下町歴史館が併設
写真提供／公益社団法人 津山市観光協会

いざ自分たちだけで今後のことも考えながら進めてみたところ、老朽化した町屋や空き家が増えていることに気づき、孤独死の不安すら感じました。年を取つてもみんなが楽しく住み続けられる地域にしていかなければとの思いが発足しました」

そう話すのは、協議会事務局長の佐々木裕子さんだ。幸い、フェア開催のために毎年集まっていたことで、協議会発足時には住民同士の横つながりがすでにできていたという。連合町内会や愛育委員、民生委員、老人会、青壮年会、消防団などが中心メンバーとなり、行政や教育機関、福祉施設などと協力しながら、住民主体のまちづくりが始めた。

「重伝建指定を生かした
まちづくり部会の取り組み」

協議会では、地域の課題を3分野に分け、「まちづくり部会」「福祉部会」「防災防犯部会」を設置し、それぞれ連携しながら活動している。発足当初の「商店が減り、車がないと買い物に困る」という声から、真っ先に取り組んだのが高齢者の居場所づくりと買い物問題だった。福祉部会が居場所づくりを行

まされてきた地域で、北部の住宅地でも降雨により水路があふれることがしばしばであった。2016(平成28)年10月の鳥取県中部地震の際、既存の自主防災組織が動かなかつたという苦い経験もあり、住民が不安を感じていた矢先の同年11月、内閣府「地区防災計画策定モデル事業」の声がかかった

際に地区として参加を決めた。このモデル事業を通して明確になつた課題を解決しようと自主活動はその後も続き、

防災マップや防災担当者の見直し、緊急連絡網づくり、防災訓練などに励んだ。先述の福祉部会を中心に作成された「見守り台帳」も、こうした活動の中から生まれたという。

さらに、2018(平成30)年の西日本豪雨によりその機運はさらに高まり、2020年1月、防災防犯部会が

中心となり地区防災計画を策定した。

子どもから高齢者まで互いに支え合い、「自分たちの地域は自分で守る」という城西地区に根付いた共助の意識が、岡山県下初となる地区防災計画策定につながった。また、同時に城西地区が重伝建地区に指定されることで、住民の命や財産だけでなく、町並みを守るために市と協力して防火対策

に行ける場所をつくるうと「野菜と魚の市」を2012(平成24)年にスタート。すでに100回以上開催し、毎回多くの人にぎわっている。

城西地区の西寺町は津山城下町最大の寺院集積地（いわゆる寺町）で、江戸時代に創建された寺の数は22に上り、現在もそのうち半数以上の寺が残る（重伝建地区では13）。まちづくり部会では、寺町の若手僧侶たちが宗派を超えて「城西若僧会」を結成、仏教を通じて地域の活性化を図っている。

歩きに加え、担当僧侶の寺で「抹茶」をはじめ、「城西若僧会」を聞けるまちづくりが始めた。

「写経・写仏」「坐禅・瞑想」の3コースを組み、担当僧侶の寺で「抹茶」をはじめ、「城西若僧会」を聞けるまちづくりが始めた。

い、まちづくり部会では歩いて買い物をする（重伝建地区では13）。まちづくり部会では、寺町の若手僧侶たちが宗派を超えて「城西若僧会」を結成、仏教を通じて地域の活性化を図っている。

中でも「先達といくおかげめぐり」は、僧侶ガイドならではの話が聞けるまち歩きに加え、担当僧侶の寺で「抹茶」をはじめ、「城西若僧会」を聞けるまちづくりが始めた。



左から、城西まちづくり協議会事務局長の佐々木裕子さんと、主に福祉部会を担当する事務局の牧原裕子さん

城西まちづくり協議会
岡山県津山市田町122
(まちの駅 城西浪漫館内)
☎ 0868-22-8688
[https://josai-machidukuri.com/](http://josai-machidukuri.com/)

佐々並小学校存続への思いから ウエルビーリングなまちづくりへ

—4者連携の定住促進活動を開始—

ささラブ応援隊 〈山口県萩市〉

萩往還の宿場町である萩市旭地域 佐々並地区には、150年の歴史を持つ小学校がある。児童数の減少で休校の危機に瀕した際に、保護者、地域、行政、学校が連携して定住促進活動を展開する「ささラブ応援隊」を結成。移住者を徐々に増やし、住民同士のつながりも生まれている。

文／藤沢 享乃

応援隊結成後

8家族13人の児童増を実現

萩市南部に位置する旭地域 佐々並地区は、江戸時代に萩と三田尻を結ぶ街道「萩往還」の中間点にある宿場町として栄えた地区で、現在は約550人の住民が暮らしている。地区唯一の小学校である佐々並小学校の児童数は、昭和30年代は約400人だったが、人口減少に伴い年々減り続け、2020（令和2）年に16人となつた。

この時点で地区内に未就学児がいなかつたため、佐々並小学校は全在校生が卒業する2026年3月末には児童数が0になり、休校になる可能性が出

てきた。危機感を覚えた当時の船木美弘校長は、保護者と話し合いを重ね、「小学校を存続させたい」という気持ちが一致したことから、互いに協力しながら子育て世代の定住促進活動を行うことを提案。2020年12月に保護者、地域、行政、学校が連携して定住促進活動を展開する「ささラブ応援隊」が結成された。

ささラブ応援隊の大きな特徴は4者が連携する「四輪駆動」の組織である点だ（図）。活動の中核となる「保護者」は地域の担い手になること、「地域」は活動を支援すること、「行政」は住まいの相談窓口となり各種手当の補助を行うこと、「学校」はふるさと

学習を充実させ魅力ある学校づくりを行うことが役割となっている。結成2カ月後の2021（令和3）年2月には「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」を実施。少人数指導やオンライン教育の魅力を伝える公開授業、移住に必要な住まいの紹介、地域散策などを行つた。参加者へのお土産として米計200kgと野菜を地域住民が提供するなど、地域ぐるみの見学会となつた。

第1回の見学会に参加した7家族のうち3家族から移住希望の申し出があり、そのうち1家族は2カ月後には移住した。その結果、一時はもう行えないと思われた入学式を開催することができた。その後も見学会に加え、テレ

学習を充実させ魅力ある学校づくりを行うことが役割となっている。結成2カ月後の2021（令和3）年2月には「第1回佐々並小学校と住まいの見学会」を実施。少人数指導やオンライン教育の魅力を伝える公開授業、移住に必要な住まいの紹介、地域散策などを行つた。参加者へのお土産として米計200kgと野菜を地域住民が提供するなど、地域ぐるみの見学会となつた。

第1回の見学会に参加した7家族のうち3家族から移住希望の申し出があり、そのうち1家族は2カ月後には移住した。その結果、一時はもう行えないと思われた入学式を開催することができた。その後も見学会に加え、テレ

ビ番組や地域情報誌での広報活動などを地道に続け、2025（令和7）年4月までで、8家族13人の児童が佐々並小学校に入学または転入した。

第一に、自然豊かな環境である上に、山口市と萩市の中心部まで車で20分強で楽しく過ごすため、住民同士のつながりを生む機会にもなっています」

ささラブ応援隊の活動は地域外への働きかけだけでなく、地区内の子どもたちにも大きな変化をもたらしたという。佐々並での暮らしを求めてやって来る

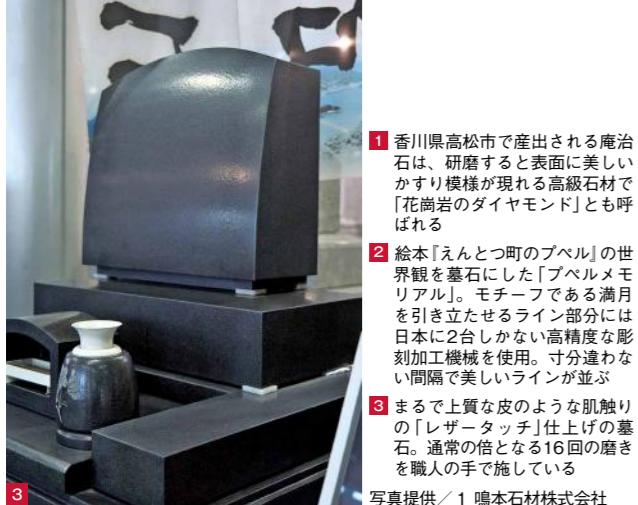
果が出たのはなぜか。



1



2



3

1 香川県高松市で産出される庵治石は、研磨すると表面に美しいかすり模様が現れる高級石材で「花崗岩のダイヤモンド」とも呼ばれる

2 絵本「えんとつ町のペベル」の世界観を墓石にした「ペベルメモリアル」。モチーフである満月は引き立たせるライン部分には日本に2台しかない高精度な彫刻加工機械を使用。寸分違わない間隔で美しいラインが並ぶ

3 まるで上質な皮のような肌触りの「レザータッチ」仕上げの墓石。通常の倍となる16回の磨きを職人の手で施している

写真提供／1 鳴本石材株式会社

品質を担保できる体制を構築して他社と一線を画している。

現在、日本国内で流通する墓石のおよそ8割が中国加工といわれるが、同社は国内最大規模の加工工場（笠岡市）での製造にも力を注いでおり、「技術の継承」という意味でも、ものづくりの場を残すのはメーカーの使命」と太郎社長は力を込める。

会社のさらなる発展に向け 価格ではなく、価値で競争する

墓石は2000年代をピークに市場が縮小している。太郎氏は2004（平成16）年に入社し、製造をはじめ、仕入れや企画、中国工場の立ち上げなどを

経験し、2014（平成26）年、社長に就任した。経営者として「いかに会社

を維持・存続し、成長・発展させるか

を考え、競争優位性という視点からの取

り組みを開拓する。

その一つが商品開発だ。「価格競争よりも力をつけ、顧客である販売店に貢献する商品開発に取り組んだ。墓石はメーカーやブランドで選ばれる商品ではないため差別化は難しいが、同社は加工、素材、デザインという三つの視点から商品化を進めて注目されている。

加工の視点では、メイドインジャパンという付加価値を訴求したブランド「鳴本プレミアム墓石」や、皮革のよう

なしつとりとした肌触りの「レザータッチ」などが代表商品として挙げられる。素材の視点では、愛媛県産の大島石や香川県産の庵治石、岡山県産の万成石、北木石など、仕入れの強みを生かして製作する国内10产地の高級材を使う墓石を「日本銘石物語」と銘打ち、日本の気候風土に合う国産材の良さをPRする。デザインの視点では、デザイナーとのコラボによる「デザイナーズ墓石」や「和モダンスタイル」といったシリーズに加え、絵本『えんとつ町のペベル』の世界観がコンセプトの「ペベルメモリアル」などをラインアップしている。

さらに、生産や仕入れの力量の高さを誇るメーカーとして、販売店の業績を

向上する勉強会なども主催している。

北木石の歴史と伝統を伝える 資料館を開設

profile

鳴本 太郎（なるもと・たろう）

1979年生まれ、岡山県笠岡市北木島出身。駒澤大学卒業後、京都府の石材店で墓石の現場施工に従事。2004年に鳴本石材株式会社に入社し、2014年に代表取締役に就任。一般社団法人日本石材産業協会（東京都）の理事や北木石材商工業組合（笠岡市北木島町）の理事長のほか、北木石の資料館などの複合施設「K's LABO」（同町）の館長も務める。売上高20億円、従業員数65人〔グループ全体130人〕（2024年12月時点）。笠岡市や浅口市、里庄町を放送エリアとするコミュニティFM放送局「エフエムゆめウェーブ」でラジオDJとしても活躍する。

文／入江 太日利 写真撮影／西江 浩二

「北木石」の産地で創業 国内最大規模の加工工場を有す

瀬戸内海、岡山県笠岡市の沖合に浮かぶ北木島は古くから「石の島」として知られる。大阪城の石垣をはじめ、日本銀行本店や東京駅丸の内駅舎のほか、日本橋や靖国神社の大鳥居など、日本の近代化を支えたランドマークともいえる建造物に用いられた「北木石」の産地だ。鳴本石材は北木島が発祥で、現在は笠岡干拓地の茂平工業団地に本社を構え、墓石などの製造と輸入卸販売を手掛ける。



**社員一体となって
アイデアと実行力を磨き
石材加工の強みを生かし
価格より価値で勝負する**

鳴本石材株式会社 代表取締役

鳴本 太郎

（岡山県笠岡市）

50周年を機に 新しい経営理念を策定

2021（令和3）年に迎えた創業50周年を機に、新たな経営理念を策定した。10年後の将来像を考え、『いいヒトイ

ケーム』が2025（令和7）年2月に公開されて関心を集め、このエリアで増加する観光客の受け皿にもなっている。

「バガネのまち」の歴史を強みに 多様な分野を特殊技術で支える

株式会社守谷刃物研究所

《島根県安来市》

文／松浦 啓子 写真撮影／山田 泰三

日本刀にルーツを持つ 刃物研究から鋼部品製造へ

「たら製鉄」は、砂鉄と木炭を用いて鉄をつくる日本古来の製法で、島根県の奥出雲地方では和鉄の精錬技術が発達し、西洋の近代製鉄が導入されるまで一大産業となっていた。その積出港として発展したのが安来市で、現在も「ハガネのまち」と呼ばれる、鉄鋼や金属加工が地域産業の主柱となっている。その一端を担うのが株式会社守谷刃物研究所だ。

社名に「研究所」と付いているが、研究機関ではない。たら製鉄の流れを汲む高級特殊鋼「ヤスキハガネ」をはじめとした多様な素材を使い、加工部品を製造している金属加

工メーカーである。
創業者の守谷善太郎氏は大正時代から朝鮮半島に渡り、現在のソウルで日本刀を生産し、第二次世界大戦中は軍刀を製作していた。終戦後は、

ゆかりのあつた株式会社日立製作所安来工場の新事業に招聘される。同工場と旧安来町が戦後復興のために取り組む「やすぎ刃物の町構想」の一環として設立された「刃物研究所」で研究・製造の責任者となり、専属協力工場として「守合作業所」を1953（昭和28）年に創業した。

1956（昭和31）年、日立製作所の鉄鋼金属部門が日立金属工業株式会社として独立した。刃物研究所が閉鎖されるのに伴い、善太郎氏は製造・販売部門と、研究所の名を引き継ぐ「株

式会社守谷刃物研究所」を日立金属工業安来工場内に設立した。

日立金属工業は、当時から刃物だけでなく工業用途や生活家電に使用される鋼製品も生産していた。守谷刃物研究所も旋盤の導入などを進め、時代の流れに沿った製造へ転換していく。現在は日立金属工業の後身となる株式会社プロテリアルから材料を仕入れながら、守谷刃物プランドとして多様な製品を生産。特約店を介して日本各地に納品し、インドなど海外の企業との契約も拡大している。

高度な技術と生産体制で 多様なニーズに対応



ステンレス鋼の中でも特に加工が難しいとされる析出硬化系ステンレス鋼SUS630 (H900) の精密シャフト円筒の仕上げ加工



④ 直径100インチ(254cm)の丸刃で石を切削。刃先には人工ダイヤモンドが使用されている。石の種類や切削位置によって刃を送る速さや一工程で切り込む深さの設定を変えている

⑤ 「会社参観日」などの社内イベントを企画する、部門横断型プロジェクトチームの会議

⑥ 北木島でオープンした資料館を中心とした複合施設「K's LABO」。カフェやレンタサイクルなど、観光の拠点としての機能を持つ

⑦ 社内にはさまざまなタイプの墓石が並ぶ

写真提供／5・6 鳴本石材株式会社

冊子にまとめて浸透を図っている。また、社屋外壁や外構の一部を改修した上、今年は西海岸風のコンセプトで本社オフィスのリニューアルを進めているという。「リラックス＆リゾートのイメージで、より働きやすい職場づくりの一環です」と、ソフトもハードもアップデートに努める。

こうした取り組みの背景には、日本社会全体の課題である人手不足もある。「石やお墓に興味を持つて入社する人はまずいません。斜陽産業ともいわれる地方の中小企業だからこそ、採用力が会社の命運を分けると考えています」

数年前に大手採用エージェントの活用を一切やめてSNSの発信に力を注

ぎ、若年層6人の採用につなげるなど成果を上げている。また、「いい採用をして、いい育成をしても、いい評価制度がないと人は育つていません」と話し、社員が将来についての不安を払拭して人生設計ができるよう、賃金や人事の制度設計を4年かけて再構築し、今年4月に刷新した。

社員の成長につながる 機会を創出

「先行きが不透明な正解のない時代。社員一人ひとりの主体性を伸ばし、いかに自立した組織になれるか。自分たちで課題を見つけて解決していくことは、働きがいにつながります」

その実践の一つが、通常業務で接する機会の少ないメンバーと部門横断型プロジェクトを行った。その様子を動画投稿サイトでも発信し、会社のPRにもつなげた。こうしたプロジェクトは多い年で10件ほどが立ち上がるという。

「イベント自体の効果もありますが、成功に向けてアイデアを出し合い、試行錯誤しながら取り組む過程にプロジェクトの意義があります」と太郎社長は狙いを明かす。

新ビジョンの実現により 持続的な発展を目指す

葬送の世界では、樹木葬や散骨、永

久のチームを組み、与えられたミッションの実現に取り組むプロジェクトだ。例えば、「これまでにない社内イベントを企画せよ」というミッションを受けて、社員の家族を会社に招く「会社参観日」というイベントを行った。その様子を動画投稿サイトでも発信し、会社のPRにもつなげた。こうしたプロジェクトは多い年で10件ほどが立ち上がるという。

「新しいビジョンに掲げた『いいヒトイイモノいいカイシャ』の実現こそが目標。今やるべきことであり、やりたいことは5位と大手になりますが、シェアはわずか2%程度です。市場が縮小するとはいえ、たった2%ですから、見方を変えれば伸びるしかない、とも言えます。やり方次第でまだ成長できると考

えています」と太郎社長は前を向く。「新しいビジョンに掲げた『いいヒトイイモノいいカイシャ』の実現こそが目標。今やるべきことであり、やりたいことは5位と大手になりますが、シェアはわずか2%程度です。市場が縮小するとはいえ、たった2%ですから、見方を変えれば伸びるしかない、とも言えます。やり方次第でまだ成長できると考

えています」と太郎社長は前を向く。「新しいビジョンに掲げた『いいヒトイイモノいいカイシャ』の実現こそが目標。今やるべきことであり、やりたいことは5位と大手になりますが、シェアはわずか2%程度です。市場が縮小するとはいえ、たった2%ですから、見方を変えれば伸びるしかない、とも言えます。やり方次第でまだ成長できると考



鳴本石材株式会社
岡山県笠岡市茂平2918-23
☎ 0865-66-1414
<https://www.narumoto.co.jp/>
YouTube, Instagram, TikTok, Facebook @narumoto.co.jp

入江 太日利（はりえ たとし）

1970年福岡県生まれ。大学卒業後、

業界新聞、経済誌などを読んでフリーライ

ターに、取材記事を幅広く執筆するとともに、写真撮影なども手掛けている。



1 株式会社守谷刃物研究所の守谷吉弘社長

2 加工に必要な設備が社内にそろっていることも強みの一つ

3 全社員の4分の1が女性で、技術職にも女性が増えている

が、秋田県の風力発電所では10年間交換不要で使用できているという報告があります。今後はテストのデータを活用しながらPRしていく予定です」

柔軟な生産体制は、熟練職人たちの技術が支えている部分も大きいと。そのため、技術継承が大きな課題の一つと守谷社長は話す。

「かつては、技術は見て盗むものとされていましたが、今は丁寧に教える時代。昔とは価値観が違うので、若い世代にとって心身の負担が少ない

形で継承していく必要があります。若者たちが自己表現できず、わだかまりを抱えることのないよう、円滑にコミュニケーションが取れる環境づくりが必要だと考えています」

そのために社内イベントや食事会など、親睦を深める機会をつくるようにしている。また、人事部門の人員を4人に増員し、入社後2年間は毎月面談を行うなどして対話の機会をつくり、業務の希望や悩み、キャリア・ライフプラン等を密に共有している。

現在、全社員の4分の1が女性で、技術職にも女性が増えている。こうした背景の下、人事部門の課長には女性が就任し、女性幹部の育成も含

め、当事者意識を持つて環境整備を進めている。そのような取り組みが認められ、2024（令和6）年には女性活躍推進企業として「えるぼし認定」を受けた。安来市では初の認定企業で、金属製品製造業としては島根県内初の認定となる。

「女性が働きやすいということは、男性も働きやすいということ」と守谷社長。人事部門から男性社員にも育休取得を呼びかけるなど、休暇制度や時間調整などを気軽に利用できる空気を醸成している。最近は妻の産後ケアのために育休を1～2カ月取得する男性社員も多く、行事や看病、介護など家族のための休暇も取りや

すい雰囲気になっている。

企業としての展望を聞いてみると、守谷社長は「景気の波に左右されにくい会社にしていきたい」と話す。「市場の変化に対応できる技術と設備はありますが、大切なのはなんといっても『人』。今後は全社員がマネジメントスキルを持つて教育し、一人ひとりが経営や売り上げに関する知識も持ちながら、付加価値のあるものづくりをする組織を目指しています」

人を大切にしながらものづくりのバトンをつなぐ姿勢は、今後も地域産業を支えていくだろう。

主力製品の一つに、自動車の油圧ポンプに使われるベーンがある。仕上げ加工に0.1ミクロン単位の精度が求められる部品だ。同社では月に約600万個を生産し、うち400万個程度を仕上げまで手掛けている。現在注力している製品は、特殊素材のパーメンジュールやFe基アモルファス合金（以下、アモルファス）を使用した積層モーターコアだ。エアコンプレッサーなどに使用すると省エネ効果があるため、多様な分野でニーズの拡大が期待される。EVやドローンへの需要も見込まれ、この技術を持って同社は「空飛ぶクルマ eVTOL（電動垂直離着陸）モーター」の開発にも携わった。

大手が手を出しにくい 特殊なニーズに応える

他社の試作開発支援も行つており、近年は積層モーターコアの試作依頼が増加し、年間で数千万円の売り上

る。主力製品の一つに、自動車の油圧ポンプに使われるベーンがある。仕上げ加工に0.1ミクロン単位の精度が求められる部品だ。同社では月に約600万個を生産し、うち400万個程度を仕上げまで手掛けている。

現在注力している製品は、特殊素材のパーメンジュールやFe基アモルファス合金（以下、アモルファス）を使用した積層モーターコアだ。エアコンプレッサーなどに使用すると省エネ効果があるため、多様な分野でニーズの拡大が期待される。EVやドローンへの需要も見込まれ、この技術を持って同社は「空飛ぶクルマ eVTOL（電動垂直離着陸）モーター」の開発にも携わった。

主力製品の一つに、自動車の油圧ポンプに使われるベーンがある。仕上げ加工に0.1ミクロン単位の精度が求められる部品だ。同社では月に約600万個を生産し、うち400万個程度を仕上げまで手掛けている。

現在注力している製品は、特殊素材のパーメンジュールやFe基アモルファス合金（以下、アモルファス）を使用した積層モーターコアだ。エアコンプレッサーなどに使用すると省エネ効果があるため、多様な分野でニーズの拡大が期待される。EVやドローンへの需要も見込まれ、この技術を持って同社は「空飛ぶクルマ eVTOL（電動垂直離着陸）モーター」の開発にも携わった。



株式会社守谷刃物研究所
島根県安来市恵乃島町113-1
☎ 0854-23-1311
<https://www.moriyacrl.co.jp/>

松浦 啓子（まつうら・けいこ）
島根県松江市在住。広島のフリー・ライター。現在は地元企業や医療機関の広報誌、観光関連のウェブサイトなどのライティングに携わる。
writer

守谷刃物研究所の技術とソリューション

難削材高精度加工技術

微細穴・深穴加工技術

航空・宇宙関連部品や半導体製造装置、医療機器等の分野において、ニーズが高まっている技術。加工工具の選定や切削液の選択などに気を配り、インコネルやチタンといった難削材においてもこの加工技術を実現。



精密シャフト円筒仕上げ加工技術

航空機部品等の用途で使用される析出硬化系ステンレス鋼 SUS630 (H900) は、ステンレス鋼の中でも特に加工が難しいとされる。同社では、SUS630 (H900) を使ったシャフトの精密円筒仕上げ技術を確立し、各種シャフトを月間約300本加工。



高精度平面度仕上げ加工技術

形状等により平面のうねりが出やすい部品に対し、残留応力の除去や加工歪の抑制など複数のノウハウを組み合わせることで高精度平面度を実現する加工技術を確立。



圧延ロール加工技術

金属材料の製造過程で用いられる圧延ロールの外周に、プロファイル研削によって微細・高精度な溝を形成。



自動車搭載用ペーン

自動車の油圧ポンプに使われる部品。部品厚み0.1ミクロン単位の精密な加工技術が要求される。



主力製品の一つに、自動車の油圧ポンプに使われるベーンがある。仕上げ加工に0.1ミクロン単位の精度が求められる部品だ。同社では月に約600万個を生産し、うち400万個程度を仕上げまで手掛けている。

現在注力している製品は、特殊素材のパーメンジュールやFe基アモルファス合金（以下、アモルファス）を使用した積層モーターコアだ。エアコンプレッサーなどに使用すると省エネ効果があるため、多様な分野でニーズの拡大が期待される。EVやドローンへの需要も見込まれ、この技術を持って同社は「空飛ぶクルマ eVTOL（電動垂直離着陸）モーター」の開発にも携わった。

主力製品の一つに、自動車の油圧ポンプに使われるベーンがある。仕上げ加工に0.1ミクロン単位の精度が求められる部品だ。同社では月に約600万個を生産し、うち400万個程度を仕上げまで手掛けている。

現在注力している製品は、特殊素材のパ

鳥取の宝物を 海外につないで 恩返しを

FMLIインターナショナルジャパン 代表
胡 敏

〈鳥取県北栄町〉

日本海と中国山地に囲まれ、海産物や農産物に恵まれている鳥取県。その魅力ある特産品の海外展開を支援し、地域を活性化したいと県中部の北栄町で地域商社を立ち上げた胡敏さん。中国・台湾と鳥取県内の企業をつないで、輸出した特産品は現地で人気を集めている。



文／倉恒 弘美
写真撮影／山田 真実

国際交流員として 中国から鳥取県へ

鳥取県の特産品といえば、二十世紀梨や松葉ガニが全国的に有名だが、その他にも畜産品や魚介類、お米、乳製品、地酒など、良質な農産物や加工品が数多くある。鳥取県中部の北栄町に事業所を置く「FMLIインターナショナルジャパン」は、こうした優れた県産品の海外展開を支援する地域商社だ。現在は、上海や香港、台湾などの中華圏の市場を開拓している。

代表を務める胡敏さんは、中国南部にある貴州省の出身だ。大学で日本語を学び、卒業後は貴州省の行政機関で国際交流を担当していた。その時に、派遣期間中は、鳥取県と友好都市提携を結ぶ河北省と吉林省の交流担当者を任せられ、通訳や翻訳、現地の担当者とのやり取りなどに精力的に取り組んだ。全く知らなかつた鳥取での新生活も、最初こそ寂しさを感じたが、すぐになじむことができた。

「鳥取は自然が豊かで心が落ち着きます。地域の方の人柄も温かくて『ここ

に住みたい』と思うようになりました」と2年間ですっかり魅了された。

任期を終え、後ろ髪を引かれる思いで帰国すると、今度は鳥取県庁から観光振興に力を貸してほしいと声がかかった。2004（平成16）年、鳥取に戻り、県の国際交流員として16年間勤務した。

コロナ禍が転機となり 地域商社を設立

再来日後に関わった事業は多岐にわたり。米子空港（境港市）と香港、上海を結ぶ国際定期便の誘致では、通訳や翻訳、アポイント調整、観光客誘致のためのプロモーション事業の推進などを担当し、両定期便の就航をバックアップした。私生活では鳥取で家庭を築き、「今ではもう鳥取が自分のふるさとです」と愛着は深い。

鳥取と中国を行き来し、あちこちへ飛び回っていた胡敏さんだったが、そ

の日常は新型コロナウイルスの感染拡大で一変した。

「国際交流事業は全てストップして、毎日やることもなく、朝から晩までただ机の前に座っているだけでした。だけど、時間ができたことで、自分が将来自由に考えてみること

に住みたい」と思つようになりました

が、より地域に直接貢献するために何ができるかを自問自答し、思いついたのが地域商社の立ち上げだ。

「外国人の目から見て、鳥取には良いものがたくさんあります。国際交流員として積み重ねた人脈やパイプを活用し、こうした地域の宝物を海外展開することで、恩返しできると考えました」と退職に踏み切った。

コロナ禍が落ち着きをみせ始めた2022（令和4）年、鳥取を愛する外国人や日本人の仲間と共に、県内全域にアクセスしやすい北栄町にFMLIインターナショナルジャパンを設立した。社名のアルファベットは会社の仲間たちの名前を組み合わせたもので、家族（ファミリー）の意味や仕事への姿勢、仲間や地域への思いなどが込められている。

地元企業の信用獲得に奔走

まずは国際交流員時代の人脈を生かし、中華圏のバイヤーを招いて県内各地の視察と商談会を開催した。バイヤーは、香港や上海の都会に暮らしこそ日本を何度も訪れている腕利きたちだ。

「鳥取の良さを感じてもらおう上で大切なのは、私たちの情熱。こちらの本気

- 1 二十世紀梨を使ったお菓子や加工品の商談会
- 2 取り扱う商品は、食品や飲料品、化粧品など多岐にわたる。現地向けのパッケージなどについても相談
- 3 鳥取市の老舗蔵元・高田酒造での試飲ツアー。中華圏では「獺祭」をはじめとした日本酒が売られているが、鳥取の地酒を飲んでファンになる人も多いという

写真提供／FMLIインターナショナルジャパン



白菊酒造株式会社
岡山県高梁市成羽町下日名163-1
☎ 0866-42-3132
<https://www.shiragiku.com/>
料理協力: 花のれん
岡山県高梁市落合町阿部1176-2

大典白菊 純米大吟醸雄町

筍料理

《岡山県高梁市》

岡山県中西部、吉備高原の山あいにある高梁市成羽町は、中央に高瀬川支流の成羽川が流れ、かつては高瀬舟の往来で栄えた。白菊酒造はこの地で1886（明治19）年に創業した。銘柄「白菊」は昭和天皇の御大典の1928（昭和3）年に「大典白菊」と改め、今も親しまれる。1972（昭和47）年に豪雨による洪水被害で蔵が水没した際、酒造の早期再開を目指して同町内の現在地に移転を決意。翌年には企業合同^{*}の成羽大関酒造として再スタートを果たした。その後、2007（平成19）年に地酒ブランドの確立を目指して白菊酒造に社名を改めた。

気候が温暖で良質な酒米に恵まれたこの地で、地元の米と水と技、三位一体の地酒を造り続けてきた。特に岡山は「雄町」や「山田錦」の主産地という酒米王国である。「お酒の味の核は米」と話すのは6代目社長の渡邊秀造さんだ。岡山産の多品種を扱い、これまでに「造酒錦」や「白菊米」など独自品種も復活させてきたという。

岡山の杜氏集団として知られる備中杜氏は、県南の寄島杜氏とこの地域の成羽杜氏の総称である。低精白の酒米でもうま味を引き出す技で岡山ならで



4 鳥取和牛を育てる牧場をツアーで視察。エサや育成環境などについて説明し、中華圏のバイヤーにおいしさの秘訣を伝える
5・6 香港のスーパーに並ぶ白バラ牛乳。試飲販売でおすすめ商品としてPR
7 FMLIインターナショナルジャパンのメンバーと

写真提供／4～6 FMLIインターナショナルジャパン

が伝わると、彼らも真剣に考えてくれます。温かくお迎えして、滞在中は商談以外に観察を行い、さまざまな体験用を意します」と話す通り、同社が入る日本家屋での茶道体験や、酒蔵訪問、和牛の実食体験など、多彩なプログラムを組んでいる。

「中華圏にはすでに日本の食品が多く輸出されています。でも、鳥取の食べ物は本当においしいので、舌が肥えたバイヤーたちも感動して、時には涙を流す人もいるほどです」

商談会は順調な滑り出しをみせた。「ぜひ扱いたい」とバイヤーたちから声が挙がったが、商談をまとめるために、まず地元企業の信用を獲得する必

要があつた。何しろ、経験も実績もない、ゼロからのスタートだ。

「リスクのあることなので、企業が慎重になるのは当然。ただ、会社にとつてはつらい時期でした」。最初の1年間は企業との信頼関係を築くことに費やされ、無収入が続いた。胡敏さんは、地域への思いや情熱とともに、具体的にどのようなサポートを提供するのか、1年かけて丁寧に伝えていった。

その努力が実り、初めて香港へと輸出されたのが、大山乳業農業協同組合（琴浦町）が製造する「白バラ牛乳」だ。輸出に先立って、同社はパッケージの改良を進め、消費期限までの日数を35日間に延ばすことに成功した。そのお

かげで船便が可能になり、輸送のコストも実現できた。

「現地の食品売り場ではすぐに売り切れ、消費者が次の入荷日を待つていい状態です」とうれしそうに話す。

地域のビジネスモデルをつくり恩返しをしたい

鳥取に限らず、味や品質が優れていても、地域の特産品が海外に進出するのはハードルが高い。大手商社は市場規模の小ささや原価率の高さなどから、地域商材を扱う際は慎重になる。また、地域の中企業が自力で海外進出しようとすると、まず言葉や文化の壁を乗り越える必要がある。取引が成立しても、考え方や商売の進め方の違いなどでミスコミュニケーションが発生して長続きしないことが多いのだという。

「鳥取県の事業者のほとんどは、海外への輸出経験がありません。海外展開で直面する課題をクリアできるようにカバーするのが私たちの役割です」と話し、きめ細かに企業をサポートする。各地の商工会議所や行政とも連携し、バイヤーを招いての企業への視察や交流会、試食会にはじまり、商談のセッティング、契約書などのさまざまな書面の翻訳、輸出手先の市場調査、販売先

への輸出手続きと、ワンストップのサービスを提供している。企業だけでなく生産者も支援し、若手農家とバイヤーをマッチングして契約栽培することで、持続可能な農業につなげようとしている。

「仕事は本当に大変。でも地元の皆さんに支えられてきたので、恩返しがしたい。それが地域商社の使命であり、実現できるメンバーがそろっています」と胡敏さん。ふるさと鳥取への愛情とともに情熱を持つ前進を続ける。



Writer
倉恒 弘美（くらつね・ひろみ）
鳥取県倉吉市出身 東京の出版社勤務
鳥取県を中心に山陰の情報誌やPAP誌で活動する。
FMLIインターナショナルジャパン
鳥取県東伯郡北栄町由良宿489-2
<https://fmlii.com/>

はの旨口の酒を醸してきた。白菊酒造で杜氏を務める三宅祐治さんは、社長と共に独自の品種も含めた多様な米で酒造りに挑んできた。2024（令和6）年には、伝統ある備中杜氏自醸清酒品評会で前人未到の3年連続最優等受賞という快挙を遂げている。

今回紹介するのは「大典白菊 純米大吟醸雄町」。雄町米は、酸のバラカンなど醸造が難しい酒米だが、精米歩合を50%に設定し5～6度の低温で熟成。仕上げに1年寝かせて香味バラカンに優れた旨口のふっくらした味わいに仕上げた。肴は地元で採れた筍料理だ。甘い香りが漂う柚子みそ焼きや木の芽和え、饅頭と合わせた煮物に磯部揚げと、部位ごとに異なる食し方が楽しめる。冷酒でいただくと、酒の澄んどうま味としなやかな酸が匂の滋味にぐつと奥行きを添える。気品のある香りがそれぞれの料理の味わいや食感と溶け合う余韻も心地よい。

「日本酒を楽しく、おいしく飲んでほしい」と、炭酸割りの日本酒など新たなスタイルの酒も送り出してきた。「岡山の良さを伝える酒造り」を志し挑戦し続ける、備中杜氏の心意気が宿る一杯を味わいたい。

吉和太鼓踊り

(広島県尾道市)

太鼓と鉦が刻む独特的のリズムと「イヤ」「ハ」という掛け声が響く、勇壮な吉和太鼓踊りは、足利尊氏の戦勝を祝ったものとされる。伝統と誇りを受け継ぎ、現在は2年に一度、浄土寺に踊りを奉納している。



1 浄土寺に到着した一行は山門（国指定重要文化財）前にそびえる石段を後ろ向きになって上る
2 尊氏から譲り受けた御座船を模した「観音丸」には、その名の通り観音様が乗っている
3 尾道水道沿いを浄土寺を目指して練り歩く
4 一行の前後には赤鬼と青鬼が付いている。世襲制で元は有力な漁師だったといわれる
5 浄土寺で観音様を本堂に安置した後は境内で踊りを奉納。後ろにそびえるのは多宝塔（国宝）
6 1928年に奉納された絵馬に描かれている江戸時代の吉和太鼓踊り（浄土寺所蔵）

写真提供／5 一般社団法人 尾道観光協会

足利尊氏ゆかりの地で生まれた太鼓踊り

広島県尾道市は瀬戸内海に面し、向島との間の海は尾道水道と呼ばれる。その尾道水道沿いの漁師町・吉和地区の人々により、隔年（西暦の偶数年）8月18日に吉和太鼓踊りの奉納が浄土寺で行われている。

足利尊氏が戦勝祈願をした寺として有名な浄土寺は、「坂の街」と呼ばれる尾道市街地の北の山に鎮座する多くの寺社の中で最も古く、聖徳太子が創建したといわれる。

吉和太鼓踊りの起源には二つの説がある。一つは室町幕府成立の時代にさかのぼる。1336（建武3）年、京をめぐる戦いに敗れた足利尊氏が九州へ下る途

中、浄土寺で戦勝を祈願。その際、吉和の漁師たちが福岡まで尊氏の軍船の水先案内を務めたとされる。これに感謝した尊氏は、九州の霸権争いに勝利し東上する際に再び浄土寺へ祈願に訪れ、吉和の

港町を練り歩き 浄土寺で踊りを奉納

奉納当日、約50人からなる一行は観音様を乗せた御座船「観音丸」を先頭に、尾道本通り商店街を通り浄土寺へと向かう。御座船は船方が引き、世話役の宰領方が続く。赤鬼と青鬼が見守る中、その後ろに保存会のメンバーと吉和の小中学生の男子生徒で編成された大太鼓（おうど方）、小太鼓（かんこ方）、鉦役の隊列が連なる。一行は、足利氏の家紋である「二引両」（ふたひりりょう）と橋を染めた法被（はっぴ）、長だすきに鉢巻きの凜々しい装いで、太鼓を打ち鳴らし、踊りながら港町を練り歩く。浄土寺の前まで来ると、山門前に80段の急な石段がそびえる。まず御座船が上げられ、続いて一行が海の方向を向いて一段ずつ後ろ向きに上っていく。その姿は壯観だ。この特徴的な動きは、海からの敵襲に備えたためと伝えられる。やがて本堂前に到着すると、観音像を安置し舟唄と踊りの奉納が行われる。「イヤ」と五色飾りのぼちを空高く打ち込み、「ハ」と太刀の型で応じる。攻めと受けの型は、尊氏の兵の訓練を模したものともいわれ、力強く迫力のある踊りだ。

翌日は浄土寺でいただいたご利益を吉和地区に配つて回る「村回り」（村うち）を行う。複数の組に分かれ、太鼓踊りを披露しながら回り、子どもたちは前に垂らした手ぬぐいにお菓子を入れてもらう。



吉和太鼓踊り保存会事務局の森重彰文さん

吉和太鼓踊り保存会
[連絡窓口]
尾道市企画財政部
文化振興課文化財係
広島県尾道市久保1-15-1
☎ 0848-20-7425

二引両の気概を胸に刻む 700年の歴史

吉和太鼓踊りは700年近くの間、地元の漁師が連帯感を深める機会となり、またここに暮らす人々の心の拠り所となってきた。コロナ禍の中止を経て踊りを再開した際には、涙を流して喜ぶ人もいたといい、この行事の存在の大ささを物語る。

保存会の事務局で相談役を務める森重彰文さんは「今でも吉和の漁師は船を新造すると二引両の紋を入れます。戦乱の世を治めた足利尊氏に感謝され認められたという、その心は受け継がれています」と話す。吉和太鼓踊りはそうした誇りや思いを込めて奉納するものであり、「単なる催しなれば廃れてしまうと思います」と実感を込める。

奉納が近づくと、保存会のメンバーの指導の下、吉和の小中学生が週末に練習に励む姿も恒例となっている。数年後に迫る700周年に向け御座船も新調されるなど、地域の歴史と誇りを受け継ぐ歩みは今後も続く。



浄土寺の本堂（国宝）に掲げられた寺紋の「二引両」は、足利家の家紋もある

写真提供／尾道市

文／川西 由香理

※ 応仁…室町時代の元号の一つ。1467年から1469年まで

平安時代から続く ひな人形とひな流しの文化を今に伝える



目前を流れる千代川では、毎年旧暦の3月3日にひな流しが行われる
写真提供／もちがせ流しひなの館

「燈火あかりを点けましょほんぱりに お花はなを上げましょ桃の花もものはな」で始まる童謡唱歌「ひなまつり」。女の子の健やかな成長と幸せを願うこの伝統行事の起源は平安時代にさかのぼる。貴族の子女の紙人形遊び「ひいな遊び」が原型とされ、これがお祓いに使う紙の人形「形代」かたしろと結び付き、やがて人形に災厄を託して川や海に流す民間信仰に発展した。江戸時代に入ると上流階級の間で現在のスタイルに近いひな人形を飾るようになった一方、庶民の間には紙の人形を川や海に流す風習が残つた。これが「流しひな」である。一般的にカレンダーには3月3日に「ひな祭り」と記載されているが、正しくは「桃の節句」といい、もともとは桃の花が咲く旧暦3月3日の行事で、新暦の4月頃に当たる。

ひな人形とひな流しの文化に いつでも出会える場所

鳥取市用瀬町では、この風習を継承する「もちがせ流しひな」と呼ばれる行事が毎年旧暦に合わせて開催されている。2025（令和7）年の開催日は3月31日で、平日にもかかわらずメインストリートは朝から観光客でにぎわい、まちの中央を流れる千代川でひな流しをする姿も見られた。

「流しひなによって用瀬町に全国の目



展示室には七段飾りを中心にひな飾りがずらりと並ぶ

伝統的なひな人形の収集と復元

が向けられるようになったのは昭和30年代のことです。雑誌で紹介されたのがきっかけでした」と事務局長の田中倫明さん。その後、テレビ取材なども入り次第に観光客は増えていった。

しかし、年に一度の行事で平日に行われる年もあるため、実際に目にすることが難しい人もいた。そこで、年中いつでもひな流しの雰囲気が楽しめるよう、ひな祭りの文化に触れてもらえるよう、1988（昭和63）年に「もちがせ流しひなの館」が誕生した。

しかし、年に一度の行事で平日に行われる年もあるため、実際に目にすることが難しい人もいた。そこで、年中いつでもひな流しの雰囲気が楽しめるよう、ひな祭りの文化に触れてもらえるよう、1988（昭和63）年に「もちがせ流しひなの館」が誕生した。

ものから、最近では2019（令和元）年の天皇即位を記念して発売された「高御座」をモチーフにしたものまで、幅広い年代と様式の人形も展示されて

料が並ぶ。

ひな流しの文化の発信と伝承

他地域の流しひなも展示している。

こうしたコレクションは購入品や寄贈品が中心で、実際にその時代に使われたものも多いが、復元品（レプリカ）も価値が高い。例えば、平安時代に登場した子どもの厄災を祓う人形、「天児」あまがつと「這子」はうこは、ひな人形や人形文化の原型とされ、古い資料を基に現代の人形作家が復元した貴重なものだ。他にも、江戸時代中期の「次郎左衛門雛」「有職雛」「立雛」のレプリカなど、日本古来の人形製作の技術や貴族の生活様式がうかがえる第一級の史

蓋（＝桟俵）が身近にあり、ひな流しの舟として利用しやすかつた、と推察できる。

ただ、それを正確に伝える記録や公式な資料はない。田中さんがこの館に30年勤める間に、全国からの問い合わせに対応しながら断片的な資料や口伝をつないで少しづつ分かつてきただことである。これも、拠点があればこそ成果といえる。

他地域にも桟俵型は存在するが、京都の下鴨神社（賀茂御祖神社）の流しひなや兵庫県たつの市の流しひなも、用瀬から伝わったものだという。

地域の魅力を次の世代に伝える

も連れからお年寄りまで幅が広く、また中学生ボランティアの姿も目立つ。

地域の文化を学ぶ課外授業の一環として地元の中学校の生徒が運営に関わっているのだという。また、小学校では授業で流しひなを製作してひな流しを行い、高学年になると藁から桟俵をつくるという。講師を務めるのは地元保存会のメンバーである。伝統文化の継承は「もちがせ流しひなの館」を中心、用瀬町で脈々と続いている。

隣接する観光物産センターでは流しひなを土産物として購入できるほか、製作体験（要予約）も人気だ



事務局長 田中倫明さん
30年以上勤務しており、流しひなに対する愛情や知識は誰よりも深い。館を動かすエネルギーの源。
「喫茶ほんぱり」田中公子さん
併設カフェの責任者で通称「シェフ」。人気の日替わり「雛ランチ」などのメニュー開発を行っている。

写真提供／もちがせ流しひなの館



近所の女の子がひな人形を飾った家々を回り供物を食べる中国地域の風習「ひな荒らし」の紹介コーナー。カレイの焼物やくわいなど、用瀬に昔から伝わる節句料理も再現されている



江戸時代中期の享保雛。展示品の中で最も古い人形である



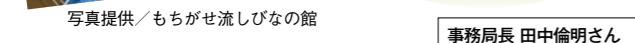
江戸時代後期の天児と這子（復元品）。幼児の災厄祓いや安産のお守りとして平安・室町時代に登場し、ひな人形にも用いられた



北木島（岡山県笠岡市）の流しひな。麦藁の舟に紙雛12体が乗る



南阿田（奈良県五條市）の流しひな。竹皮の舟に一文銭と紙雛が乗る



北木島（岡山県笠岡市）の流しひな。麦藁の舟に紙雛12体が乗る

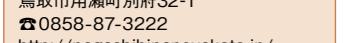


隣接する観光物産センターでは流しひなを土産物として購入できるほか、製作体験（要予約）も人気だ



写真提供／もちがせ流しひなの館

もちがせ流しひなの館
鳥取市用瀬町別府32-1
☎ 0858-87-3222
<http://nagashibinayakata.jp/>





山頂からは目の前の瀬戸内海が一望できる。写真中央に見えるのは柳井港。方向を変えると周防大島も目に入る

② 市指定文化財「琴石山のヤマザクラ」は県内有数の巨樹で、満開時には柳井港からも確認できる

③ 愛宕神社跡には石垣のみが残る

④ 江戸時代に岩国藩のお納戸と呼ばれ商都として栄えた柳井市には、当時の白壁の町並みが残る。夏の風物詩「柳井金魚ちょううちん」も同じく江戸時代から伝わるものだ

写真提供 / 2・3 柳井市
4 柳井市観光協会

山頂は毛利氏が築城させた山城の本丸跡であり、岩国一帯について書かれた江戸時代の史料『玖珂郡志』に記録が残る。

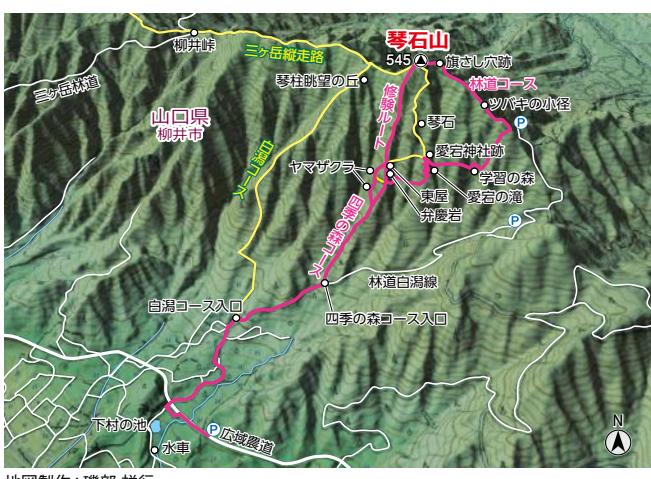
山頂周辺には城郭跡、東尾根には源平合縦走路に合流すれば、すぐに山頂だ。

四季の森コースから登り、八合目あたりで大きな2本のヤマザクラの木を過ぎると、分岐で修験ルートを選択する。看板に「景色は良いが難所あり」と書かれ通り、大きな岩が次々と現れ、木々を手掛かりに進む急登が続く。しかしその分一気に高度は上がり、岩の上に登るたびに展望が開けて気持ちがいい。三ヶ岳

手掛かりに進む急登が続く。しかしその分一気に高度は上がり、岩の上に登るたびに展望が開けて気持ちがいい。三ヶ岳

手掛かりに進む急登が続く。しかしその分一気に高度は上がり、岩の上に登るたびに展望が開けて気持ちがいい。三ヶ岳

戦で源氏が旗柱を立てたとされる旗さし穴や堀切跡も残る。瀬戸内海が一望できるこの山で海上交通を見張ったのだろう。帰りは林道コースを通ってヤブツバキの群生地を抜ける。コブシも多く、春は紅白の花が咲く美しいルートだ。愛宕の滝を経由して、石垣のみ残る愛宕神社跡で手を合わせてから下山した。



地図製作: 磯部 祥行

一日も。百年も。

Energia
中国電力



中国電力ネットワーク

◎「碧い風」VOL.113 2025年7月1日発行

碧い風ホームページ



発行人: 井ノ本 瑞恵 編集人: 城市 奈那

●企 画: 中国電力株式会社 地域共創本部
中国電力ネットワーク株式会社 総務部

●発 行: 中国電力株式会社 地域共創本部
〒730-8701 広島市中区小町4-33 ☎082(544)2759

●編集・制作: 株式会社ジェイクリエイト
〒101-0052 千代田区神田小川町3-7-13 ヴァンサンクビル6F ☎03(6273)7135